

質問項目	グループ A	グループ B
事前指導のポイント	<p>保①：開設してから3年目の保育園。それまではI市のC保育園にいて、年間を通して多くの実習生の方を受け入れていた。今は3年目の保育園で、実習生の数からするとそこまで多くはないが、年間で今のところは正直なところ5~6人ぐらいである。そういった方々にまずお伝えする上での、⁽⁶⁴⁾私たちが保育のコンセプトとか、⁽⁶⁵⁾保育理念というところをしっかりと伝えたいというのが、私たちの保育の思いとして尊重していきたいというの、⁽⁶⁶⁾実習生の立場からすると、緊張したりとか、お邪魔をしますみたいな、そのような緊張感を持ってもらいたいと思うが、私たちの立場からすれば、私たちも子どもたちと対等な関係を築いているし、最近では地域とか、社会の方々とも子どもたちをたくさん出会わせてあげたいと思っているということ。その中で実習生に来ていただいたときに、⁽⁶⁸⁾同じ人として私たちは子どもたちとも、また実習生さんとも関わっていきたいと思います、ということを一番最初に申し上げるといふふうにしていく。</p> <p>保②：実習生が来ていただいたときには、⁽⁶⁷⁾園の方針だとか、⁽⁶⁸⁾学生さん自身はどういった実習に臨みたいとか、というところを聞くような形を取っている。それを元にどんな実習にしたいかというのを計画としてオリエンテーションのときに取り込んで、⁽⁶⁹⁾計画表を作成するという形をやっている。園の方針とかいうのも、なかなか実習生の方が来られて把握するまでには時間がかかるので、その都度対応するという意味で、担当する指導者というか、私は認定書の担当をしていて、全体のはんこを押しているが、その他に⁽⁶⁹⁾実習に当たる担当者を指導に付けて、<u>園の方針だったり、そういうところを指導に入れていくという形を取っている。</u>⁽⁶⁷⁾学生さんから申し出たこととはなるべく取り入れられるような方向性では考えている。</p> <p>養①：私どもは1学年140名ぐらいが保育所実習をし、保育所実習Ⅱでは人数が80名から90名にはなっていて、あとの残りは施設に実習に行くので、その人数で実習指導をしている。⁽⁷⁰⁾事前に関しては、<u>実習の目的を理解することをポイントにしている。</u>それから⁽⁷¹⁾基礎知識の確認、<u>そういったことをワークを取り入れながら、基礎知識の確認をしている。</u>それと、事前でもう一つは、⁽⁷²⁾実習する上での実践的な方法、それを映像とかグループワークで、講義ではなくて身に付けるような、そういう授業方法を取りながら、できるだけイメージしやすいというか、まだ行っていないところに行くので、それから⁽⁷³⁾人間関係の問題もあるので、<u>そういったことにメンタル面で弱い学生も中にはいるので、できるだけ不安感を取って、積極的な実習になるようにという事で、実践的な演習を取り入れてやっている。</u></p>	<p>養③：学生数約30名。⁽¹³⁾15コマの事前指導が行われている。事前指導の内容では、⁽¹⁴⁾実習記録の取り方、⁽¹⁵⁾指導案の作成、⁽¹⁶⁾事務的な書類の作成、⁽¹⁷⁾現職の保育者(卒業生)保育者の講話等、一通りまんべんなく行っている。⁽¹⁸⁾15コマでは、<u>時間が足りないと感じている。</u>少数ではあるが、⁽¹⁹⁾挨拶ができない、⁽²⁰⁾言葉遣いが悪いなどといった指摘を保育現場から受けるが、事前指導の授業だけではどうにもならないように感じている。⁽²¹⁾15コマの授業だけで行うことはそもそも難しい。</p> <p>とくに力を入れて指導していることは、実習Ⅰでは記録で苦労している学生が多いので、⁽²²⁾記録を取るポイントや、⁽²³⁾保育者の意図をしっかりとらえて記録することなど、実習記録についてである。</p> <p>養④：必須なこととしては、⁽²⁴⁾どうしても事務的なことが入ってくる。工夫ある取り組みとしては、たとえば⁽²⁵⁾記録の書き方や計画は、<u>実習指導の中ではやらずに、保育課程論の授業の中で、実習指導を見据えて行っており、実習指導の授業だけではなく他教科と大半を連携してやっている。</u>⁽²⁶⁾実習指導の授業も15コマではなく、18コマでやっている。</p> <p>1学年250名いて、⁽²⁷⁾実習指導は12クラス作って少人数でやっている。特色として、単科の短大なので、⁽²⁸⁾保育所実習も施設実習も幼稚園実習も、同一の教員がグループアドバイザーとして配置する仕組みを確立している。挨拶等の指導については、授業内ではできないので、文化的に学内で挨拶をする雰囲気をつくってやっている。</p> <p>子どもとの関わり不足の学生が多くなっていくことから、初めての実習(1年の1月の時期保育所実習)前の⁽²⁹⁾夏休みなどにボランティアが出来るようにしている。某協会某支部と提携してボランティアをできる仕組み(4年前位から)を作って、<u>評価のしないところで保育を楽しむ経験ができるようにしている。</u>⁽³⁰⁾子どもとかかわることや一日の保育の流れを知ることなど、<u>積極的に学べるようにして</u>から、スムーズに実習が行えるようになった。また、⁽³¹⁾大学独自でも、地域の保育園や幼稚園、児童福祉施設と連携し同じような仕組みを作って大学主導でボランティアが行えるようにしている。</p> <p>保③：事前にいろいろ勉強してきていることも感じているので、事前に話をする際、どんな実習をしたいかということや、<u>学生に聞くようにしている。</u>記録の部分では、<u>どんなふうにも(29)どんな記録をとっていいかというところを悩んでいるまま現場に来ているような感じがある</u>ので、⁽³²⁾エピソードがいいか、⁽³³⁾時系列がいいか、⁽³⁴⁾学生によって捉え方が違いうので、<u>相談しながら進めているが、(34)どんな実習日誌にしたいかという事を学校の中で決めてきてもらえるとありがたいと感じている。</u></p>

(ワークの具体的なものとしては?)

養①: 例えば基礎知識の確認という場合は、ワークシートを使って、講義ではなくて、自分で実習をして、確認をして、どこまで自分が理解しているかという、そういうプリントを渡して家でやってくる。そして最終的に分からないところがないようにした上で、実習日誌のほうに記録をするということをやっている。

養②: 本学は2年制の短大で、学生は1学年60人です。比較的小さい所。短大、専門学校もそうだと思うが、基礎学力がすごく落ちてきている。基本的な課題、実習以外のところにいるとしないといけないことがある。⁽⁹¹⁾ 実習の前身に入る前のところとして、基本的な態度、社会人としてのマナーというか、その辺もよく指摘されるので、それだけでできればいいとは思っていないが、それでもできないと実習にならないということをよく痛感している。最低限ある程度文章を書けることと、⁽⁹²⁾ あいさつとか、⁽⁹³⁾ 社会人としてのマナーというようなものを、実習指導じゃない形でという前提としてやりつつ、あとは基本的な実習の指導というふうにやっている。

基本的にそういった学力面だけではなくて、子どもが好きと言いながら、意外と子どもと関われない学生たちが増えているので、何らかの議論が学校で追求されているとは思っている。⁽⁹⁴⁾ 実習に行く前にできるだけたくさんの子どもたちと関わるような機会を用意しようということ、工夫はしている。本学で、短大附属の幼稚園と保育園、両方あるので、そちらのほうで⁽⁹⁵⁾ 見学実習やあとは⁽⁹⁶⁾ ボランティアとしての実習を2日ずつ、トータル4日間、やるということと、⁽⁹⁷⁾ 学園で子育て家庭支援センターをやっているので、こちらもあるの、そういう場所も使って学生に比較させて、幼稚園に入る前の子どもたちが多いが、年に1年生1回、2年生1回だけしかないが、少し実践的なところをやるようにはしている。

養①: 事前のところであつと補足があるが。子ども学というメインの科目があつて、実習に行かない1年生のときに、保育園、幼稚園、認定子ども園に⁽⁹⁸⁾ 記録も取らないでいい、ただ子どもと関わって楽しく過ごしてきましよう、みたいなものを取り入れている。だから、実習のときには本当に緊張して、楽しくというところがなかなか飲み込めないかと思うが、1年生の子ども学の授業での見学はともリラックスして楽しんでくるようで、そういう企画も事前の中には入っているかなというふうには思っている。

保①: 私たち現場の立場からすると、実習生を受け入れるというところで大きな目的として、⁽⁹⁹⁾ やはり保育の楽しさを感じてもらいたいというのが1番。保育の道を選んで、そういった学校に行つて、そこから違う道を選ぶ学生も多いのかと思うが、職場の中で共有しているのがまず楽しんで帰つても

保④: そうすると、今度は⁽¹⁰⁰⁾ 記録を書くことに夢中になってしまふ学生もいて、ものすごく細かく記録していて、これはすごいねというくらいに細かい記録の学生がいる。一方で、ざっくり書いてくる学生さんもいて二つにわかれている状況もある。⁽¹⁰¹⁾ 細かくかいてくる学生には、そんなに記録に頑張らなくていいのにと。実習1のときなんかは、もともと子どもとも触れ合つてほしいなというのを感じている。人目を気にしながら実習している学生が多いように感じている。「やりたいようにやっでござらん」と指導している。そこから始まると思つている。

事前指導
のポイント

	<p>らう、⁽⁶⁴⁾保育の道に進んでもらう、ということを第一として考えている。もう一つが⁽⁶⁴⁾やはり保育士自身の学びにしてみたいということを、管理側の立場になって、強く思っているところ。それは、今、保育園も増えていく中で、保育の質をどういうふうに上げるのか、それが大きな課題と私自身感じていて、私の園でもやはり若スタッフ、そういう指導をすることに慣れない保育士も多く増えてきていると思うので、やはり学生さんに来てもらって、そこに伝えていくプロセスが大きな課題になると思っている。</p> <p>⁽⁶⁷⁾先ほどの文章が書けないとか、社会人としての態度というところは、やはり現場に来てからも伝えていくところの、その後の現場での学びにも期待してもらいたいか、その中で保育の道を諦めないような指導をしていただければと思う。</p> <p>保②：先ほどの話にあったように、子どもと関わる機会を学生のうちにたくさん取ってもらえるといいと思っている。割と学生さんは忙しくて、なかなか保育のアルバイトだったり、関わることが今、少なくなっているという話も聞く機会もあって、そのような機会があるといいかなと思っている。子育て支援とか、そういうところの関わりも学生さんのうちにたくさんしてきてもらえるといいかなというふうに感じている。</p> <p>今、子育て支援というか、子育てルームみたいなものが始まって、その中で保護者がいる、⁽⁶⁹⁾子どもがいる中でどうやっ保護者と関わるかとか、そういうのがもう少しラックスした状態で経験ができたりするので、そういう雰囲気の中に入れていいかなと思っている。あとは、やはり目的をしっかりと持ってきていただけと、そのときの目的ではなくともいいとは思うが、⁽⁶⁶⁾自分がこの実習でこんなことをしたいという、少しでもいいので、その思いをオリエンテーションのときでも話してくれると、こちらも少し広げていけるかなというふうに感じている。</p>	
	<p>養①：オリエンテーションの仕方はマニュアルがあって、丁寧にどのようなオリエンテーションしてくれるかと。⁽⁶⁸⁾電話のかけ方からレクチャーをしている。今の学生たちの電話の対応とかにやや不安もあるので、マニュアルにしっかり、⁽⁶⁹⁾どういうふうに敬語を使うとか。本当に恥ずかしいが、そういうたことも含めてマニュアル化している。それから、どういう時間帯にオリエンテーションを受けるのかということも、保育園の事情、幼稚園の事情を話して、その時間帯を。自分の都合のいい時間帯を先に言うのではなくて、先方の都合のいい時間にオリエンテーションを受けるように、そういうふうなことも配慮するようにというふうに学生には伝えている。</p> <p>それから、実際にオリエンテーションを受けに行ったときには、まず、やはり保育課程とか、その園の保育目標、保育方針、それから保育課程、それから保育指導計画を、もしその時点で見せていただけるのであれば、見せて</p>	<p>養④オリエンテーションで何を見ているか、聞いてくるかということは明確に示している。⁽⁶⁵⁾記録用紙の中に実習の概要（沿革、理念、環境、クラス編成）を書く欄があって、これらのことを聞いてくれるように指導している。これらのことは、事前に聞いておかないと、学生は実習中にそのことを聞いてくれる余裕や身のこなしができない状況にある。⁽⁶⁶⁾実習に入るにあたっての身だしなみ、⁽⁶⁷⁾持ち物なども聞いてくれるよう指導している。その他、⁽⁶⁸⁾自分がどう実習したいのか、何を学びたいのかを（自己課題）をしっかりと伝えることを指導している。 また、実習連絡会でオリエンテーションに何をすればよいかと質問があったので、実習実施要綱を作って園に渡している。</p> <p>養③：オリエンテーションでおうかがいする前に、基本的な確認事項（服装、</p>

いただくということと、親御さん向けのパンフレット、入園の案内、そういうものもいただいたりするので、その園の概要が非常につかみやすいので、お話を聞いていただくよりメモを取ること、そういう資料を差し支えない範囲で見せていただくように学生に伝えている。それからそういうパンフレットをいただいたら、それを持って帰ってきて、自分でも一度復習できるので、そのことも伝えている。

それから、⁽⁶⁰⁾実習計画というのには特に立てさせてはいたくないが、どういう入り方をしたいか、実習をどういうふうに受けたいかということ、どういう方法があるかということを授業の中で説明して、園と相談なさいと。それで、園の事情で自分が幼児クラスに入りたい、あるいは乳児クラスに入りたいとしても、入れない場合もあるので、自分の希望を言ってもいいけれども、あくまでも園の事情を聞いてから、最終的に話し合って、実習方法を決めるよ

うにという話をしている。

それから、実際にいく場合の学生個々の目的などは、実習日誌のほうに書かせるが、そのときに自分の実習への意欲、抱負というふうなもの、それから実習課題を明確にするということを授業の中でやっている。その課題については、一応子どもも理解とか、保育所理解とか、園理解といったような形で、大枠決めているが、その中で具体的に子どもどのよういうところ、どのよういう場面の、どのよういう内容を実習してきたいのかという具体的なものを自分で考えなさいというふうに言っている。

大学の先生方が過去に作られた教科書があるので、それに全て書いてあるという状況があって、それを学生は見ながら、具体的な課題を立てていくことになる。実際には自分ができそうな教じやなくて、たくさん課題を書いていく学生もいるし、抽象的な内容で課題を書いてくる学生もいるので、結果的にはそれを指導する形になり、個々に実習指導をすることになる。その実習指導の方法が、うちは保育士養成を長年やってきた関係で、全教員がその日誌を通して実習指導をするという体制を取っている。

⁽⁴¹⁾教員用マニュアル、それから新しく勤務された教員にもこういう実習指導をしてくださいということ、その流れと指導の内容をきちんと理解した上で、教養の先生から全ての先生が学生を受け持つ形でやっている。いわゆるゼミと同じような考え方で、1人10人前後、全教員が担当して、実習課題のようなものに、これは大丈夫なのかとか、こういう課題は持ったのかとか、個々に指導してもらい、最後にその教員の講評みたいなものをもとらって、実習に出ていくことになる。

養②：基本的には（今）お話しいただいたのと同じようなところ。本学もマニュアルがある、計画から訪問の仕方まで。ただ、一番は実習で日誌の最初のページで内容を書くページがあるので、そこを書けるようになってきてほしい。パンフレットをもったり。それがなかなかできないので、最近では記入用紙を作って、これに書いてきなさいと。その配属クラスはどこですかと、

持ち物)を指導している。また、⁽⁴⁰⁾実習の目標を書かせて、持参してオリエンテーションに臨むようにしている。⁽⁴⁶⁾個別に配慮が必要な学生、たとえば食物アレルギー、服薬などが在る場合は自分で伝えるよう指導している。

保④：⁽⁶⁰⁾オリエンテーションでは、緊張が強いので、言いたいことの半分くらいは言えていないような状況がある。⁽⁶⁴⁾どういう実習がしたいかを紙に書いて、言葉にしては、責任⁽⁶⁶⁾実習をどうやうたいたいかを聞く、「保育園におけるせしていただく」というような学生がいる。「紙芝居やる？」などと聞いても「先生決めてください」という感じの方がいる。ほんとうにわからないのかという感じがする。もう少し具体的にどうしたいかということを決めからオリエンテーションに臨んでいただけるとよい。⁽⁶⁵⁾学生が主体的に実習することを大事にしたい。意欲的な学生は、オリエンテーションの時に、「これをやりたいんです」と製作物をもってきたり、「こういう絵本を読んでもいいですか」という学生もいる。二極化している。

オリエンテーションに来たら、⁽⁴⁷⁾まず園内を見てもらうようにしている。子ども達が実習生に慣れているので、実習生がくると遊んでもらえるという感じで、実習生がきたらよってたかかってという状況で。見学が終わるとちょっと緊張がとれて笑顔が出たり、自信がついたりしているような感じがある。

⁽⁶⁶⁾配属クラスは、実習1では成長・発達の実際を見てもらうため、0歳児クラスから5歳児クラスまで順番に入れるように。⁽⁶²⁾実習IIでは、どこに入りたいか、希望を聞くようにしている。

保③：オリエンテーションについては、公立なのである程度の決まりがあるので、それは踏まえた上で、⁽⁶⁹⁾まずは緊張をほぐしたいので⁽⁴⁷⁾園の中をみてもらったり、園庭を見てもらったりしながら⁽⁴⁶⁾園の概要を伝える。

⁽⁶⁶⁾守秘義務については書面で渡して説明し、オリエンテーションで説明を受けたこととこのことの記録を書面に残してもらうようにしている。

⁽⁶⁴⁾どんな実習をしたいかということ聞く。実習IIの場合は、まだ計画はできていない学生も多いので、「⁽⁶⁹⁾学校の中で習ったもの、⁽⁶⁰⁾作ったものを実習でどうぞやってみて、使ってみて下さい」と言っている。また、できたらやってみて、使ってみて、使ってみて、学校の先生に是非、報告をしてくださいといっている。

オリエン
テーショ
ン

用意するもの何ですか、実習までに用意しなくちゃいけないものは何だ、練習しなくちゃいけないものはないかとか、全部書かせてこれを一通り聞いてくれば大丈夫だというものを事前に渡して、抜けているものもあるが、それで、実習の抱負を書いて、⁽⁶⁴⁾実習巡回担当の教員で個別指導して実習に出している。基本的に同じような感じである。

オリエン
テーション

保①：まず、私たちのオリエンテーションのところでは、やはり学生さんにチェックリストで、伝えるべき視点ということは、漏れないように、抑えるべきことというところを十分確認はしている。その中で、保育の目標だったり、発達について知らせたり、あとは持ち物があったり、⁽⁶⁵⁾保育園の概要を伝えたり。あと、伝えなきゃいけないと最近思っているのが、倫理的な部分。それが、先ほどから話の中で、人としての部分、社会人としての部分というところの話があったが、これは職員に対しても同じで、⁽⁶⁷⁾個人情報や関わりでも世の中で⁽⁶⁸⁾虐待がシビアになっていく中で、保育士のそういう視点もシビアになってきている時代だと思っているので、そういうところについても、しっかりと伝えていかなければいけないのを感じている。

実習の配属希望というところは、先ほど相談というところがあったが、やはりまず希望を出していただけというものは、こちらとしてもありがたいと思う。本園としても⁽⁷⁴⁾実習生さんの受け入れがどのようにスタツプの学びにつながるかという視点も大きな視点なので、そこも考えながらの配属になる。
実習ノートの書き方とかも、私自身がそんなに細かく書くタイプではなかった。

⁽⁶⁴⁾実習ノートを何で取るのかということと、私たちの園での考えとして伝えている。学生さんによってはページを継ぎ足して、何時間もとという方もいるが、大事なのはそれで全てまとめるというよりは、⁽⁶⁶⁾保育のねらいから計画を立てていくとか、私たちが日々やっている仕事を疑似体験というか、そういうところもねらいとしてあるのかと思う。全て書くというよりは、書き方の指導というところは最初に伝えておいてあげないと、後から改善していくのは難しいのかなと思っている。もちろん、養成校側の指導もあると思うので、そこは学生さんから話を伺いながらである。

保②：オリエンテーションのときには、園での⁽⁶⁹⁾守秘義務や出勤時間など、用紙にまとまっているもので説明をしている。その中で不明な点を学生に確認の了解を取るような形を取って進めている。実習計画のほうは、⁽⁶²⁾本人がどこの年齢をやりたいかというのを、その場で考える学生もいれば、いろいろ。その辺は学生の希望をなるべく取り入れたいというのがうちの園の考えでもある。方向性としては、学生の行きたい配属の場所という形で設定している。一応2週間とかという⁽⁶³⁾期間内の計画表のお知らせをして、学生にこの日はこれをするという形を示しておいて、不明な点があったら、もう一度

	<p>来てもらったりはしているのですが、そのときに確認をして、実習に挑んでもらうというのを、オリエンテーションのときに基本的に話している。</p> <p>保育課程を提示することについては、⁽⁴⁸⁾保育課程とかその辺は提示はしてないが、必要性があるのかなと思う。</p>	
<p>実習期間中の経験内容</p>	<p>保②：なるべく子どもの名前を覚えて呼んであげて、どうしても来る子に対しては関わりが多くなるが、なかなか⁽¹²⁰⁾近寄ってこない子どもたちにも声を掛けてしっかり関わるように、<u>経験をしようというのを学生に話している</u>。あとは、⁽¹²¹⁾遊び方とか関わり方が分からないということもあるのですが、<u>その辺は保育をしなごうということ</u>である。今、これだからこうやって考えてごらんという形で関わらせると、⁽¹²²⁾毎日絵本とか紙芝居とか読む機会を作って子どもと接する機会を提供している。そういうことを実習中は作るようにしている。</p> <p>⁽¹²³⁾学生が指導案を書いたり、計画を立てると、どうしてもそれに沿っていかなきやいなというふうになってしまうので、<u>自由にやっというよというふうな形ですと、少しリラックスをして、学生さんもやりやすいのかなと感じている</u>。</p> <p>⁽¹²⁴⁾保護者の対応をしている保育教諭の様子を見てもらうというのを取り入れている。どのようなやりとりをして、保護者がどのような表情をしているのか。内容としてもあったことを伝えなくてはいけないこと、楽しいこと、いろいろあるもので、今日はこんなことを伝えるから、聞いていてねというよいうな。朝の受け入れについても、どうやって受け入れていくかみてもらっている。</p> <p>保①：⁽¹²⁴⁾実習 I と II では変わってくるところと、<u>I は観察実習、⁽¹²⁵⁾II は責任実習という形だが、初めて来る I の学生は、子どもとの関わり方で、けんかが起きるとどこまでとか、お着替えはどこまでとか、甘えをどこまでとか、本場に細かなところ、子どもとの関わりどころで関係を築いていくところの悩みを持たれることが多い</u>。</p> <p>私たちの園でも基本的には本場にやりたいと思うことを、とにかくやってみなさいということと対応している。難しいところはスタッフでカバーするので、本園では本場に⁽¹¹³⁾1人の子と関わっていくということと、<u>とことん関わってもらえればいいかと思っている</u>。甘えが強い子がいたら、1日中その子と関わるということも、また一つの学びだなと思っている。「どこまでお手伝いすればいいのか分からないです」と言われるが、まず、最初はどこまでもやってあげてくださいというような指導をしている。そういう中で、少しずつ子どもとの距離感というのが分かってきて、ようやく次のステップに行けるのかなと思う。そこは、課題感というよりは、⁽¹¹³⁾とにかく自分の思いで、<u>子どもと関わってみようというところが大きなところかな</u>と思っている。</p> <p>実習 II になると、今度は一保育者としてどのような責任下の連携を取っ</p>	<p>保③：一番は、⁽¹¹⁶⁾子どもと遊んで楽しかったという経験を持ち帰ってもらいたいと思っている。また、保育者が子どもに関わっている中で、「保育者ってこんな風に子どもとかかわっているんだ、子どもたちと楽しくやっているんだ」という⁽¹¹⁷⁾保育者のかかわり見てもらいたい。よく厳しい先生に当たっちゃったりと心折れたりという話も聞かなくて、<u>厳しい保育者も何できびしくやっていかさちんと答えるもっているはずなので、必ずその日のうちにその答えをもらえらる時間を作るようにしている</u>。⁽¹²⁶⁾保育者と実習生が必ず一日の終わりに話をしてもらって、今日の保育を振り返る、お互いに振り返ることによって、<u>実は保育者の方にも振り返って今日自分がどうであったかという参考にとともなるので、そこを一番大事に考えている</u>。⁽¹¹⁶⁾実習で楽しかった、<u>保育者になりたいたいという気持ち</u>をさらに深めてほしいと思っ</p> <p>る。子どもの近くに行くのも表情が硬かったりとかい、声がかかれなかつたり、という学生もいると思うが、近くで見ているのもそれはそれで⁽¹¹⁸⁾子どもを理解してみていることがある。職員と私とで一度そのような方に聞いてみると、<u>やはり今⁽¹¹⁹⁾子どもがやっていることをしつかり、じっくり、見ているこの子が何をしたいのか、学んでほしいというところがやはり言われていて、そらすると、話しかけるよりしつかり見ようと思っそこにいたということがあった</u>。その姿をやはり認めて「よく見ていたね」ということで、<u>こは記録に残そうね」ということで記録につなげるように指導している</u>。</p> <p>保④：⁽¹³⁰⁾最初の<u>実習で反省会をする</u>と、どうかかわっていいかわからないとか、どういう言葉かけをしたらいいんですか、という質問がとでも多くるので、そういう時は近くにきてこそそこと聞いてごらんと、いつている。保育者と同じにはなれないのだから、自分として、学生としてできることをなんでもいからチャレンジしてほしいということを言っている。⁽¹³¹⁾実習のときの失敗は財産になるからいろいろいっばい実習で失敗して、泣いてもいいということもいっている。泣いてしまうことも多いが、「それはとてもいい学びだね」といって⁽¹³²⁾とにかく自信をつけるように指導している。⁽¹¹⁶⁾次の日も楽しく来られるように、⁽¹¹⁴⁾子どももってかわいいなという経験ができるというなど思っている。</p> <p>養③：大学でも、事前指導の中で学生には⁽⁶⁶⁾失敗してもかまわないと伝えている。それをどこまで自分で乗り越えるというか、改善できるということが本質であるということとを繰り返して聞かせている。しかし、⁽⁶⁶⁾結果的</p>